

有限会社ジック技建



施工で勝負！



【会社概要】	
所在地	埼玉県加須市
設立	平成4年
従業員数	9名
建設許可	土木工事業・左官工事業 とび、土工工事業・塗装工事業 防水工事業

会員の皆様には、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。いよいよ、寒さが増してきました。お忙しい中今年も早く1ヶ月残しとなりました。

私共有限会社ジック技建は、平成4年に同じ会社だった3人で、共同出資して設立しました。

元の会社では、下水道の防食を手掛け、建設省、下水道事業団とは施工上の留意点、防食仕様の考え方と色々なコンクリート防食について一緒に考え、口論した仲間でした。その会社は、最終的に経営の中心を金属防食へ移行していましたので、コンクリート防食を中心とした会社を設立し、現在に至っています。

16年間、年40～50件の件数をこなし、施工地域は、中国地方から北海道まで全国に亘っています。

品質管理においては、社内施工基準の作成、ピンホールの“ゼロ”努力、クレーム“ゼロ”等を目指して参りました。

取扱い工法も、エポキシ・ポリウレア・ポリウレタン・ビニルエステル・シートライニングを施し、施工場所により使い分けを行なっております。

取扱い物件は、上下水コンクリート防水防食工事・熱絶縁（気密・防湿）工事・剥落防止工事・防水（クラック・止水含む）工事・農業水路表面被覆工事を専門施工業者として行なっています。

設備は知らない間に、関連機械がウレア吹付け機 2台、超高压洗浄機 1台、ウレタン専用吹付け機 1台、モルタルポンプ 1台、グラウト注入機 1台となりました。

これからも試行錯誤しながら専門施工業者として邁進していく所存です。

株式会社ダイフレックス、BN会員の皆様方のご指導とご鞭撻を宜しくお願い申上げます。

代表取締役 濑川 晓

JR東日本落書き対策にセラゼックスRVが初採用

JR東日本では、特に関東圏において数年前より落書き対策塗料を採用していました。当初より、様々な種類の塗料を検討していましたが大別して有機と無機に分かれます。

シリコン&フッ素を主原料とした「落書きをはじく性能」を重視した有機塗料とオルガノポリシロキ酸を主原料とした「落書きを多少はじき長期に渡り簡単に除去剤で消せる」無機塗料です。

「セラゼックスRV」（恒和化学工業製品）は、後者の無機塗料です。特徴は、①環境対応無溶剤型 ②超耐候性 ③耐汚性 ④常温硬化性 ⑤落書き除去性に優れています。今回、荻窪駅付近で昭和43年に竣工した光明院橋梁地下通路落書き防止対策として工事の段階よりBN本部と共に営業を行い、JR東日本で初採用となりました。

現場調査の段階では、既存コンクリートに微弾性塗料が塗布されており既に落書きがいたるところがありました。

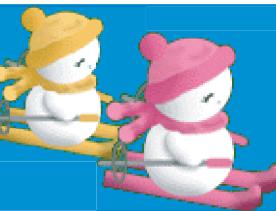
既存塗膜は、しっかりとしているようであったため、軽い目粗し程度の工程で予算を組みましたが、実際着工して既存塗膜がコンクリートと剥離をしてしまい、全面スクラーペーで撤去及び下地の目違いを削るためにサンディングで苦労しました。全工程で下地処理方法は一番読みなかつた部分ですが、今後は現場調査で正確な状況を把握するための試験も併用していきます。また、撤去したコンクリート面にも落書きがされていたことにはちょっとした発見でした。

フィラーより後工程は予定通りで材料も扱いやすく、特に無溶剤であるため作業環境も良く、臭気＆音等の住民からの苦情も無く、美観性のある仕上げができました。

今後は、BN本部が施工とともにモニタリングを実施する予定ですが新規拡大ができる事を祈って、次回の施工に今回のノウハウを生かしていきたいと思います。

東邦ビルト株式会社 レジテクト担当 山下直之

工事名称：11.恵比寿・渋谷間駒場架道橋外1箇所橋脚修繕	施工会社：東邦ビルト株式会社
施工地域：東京都杉並区荻窪地区内	
工 期：平成20年7月22～26日	施工規模：86m ²
工 法：セラゼックスRV工法	
発注者：東日本旅客鉄道株式会社東京土木技術センター	



発行：レジテクトBN本部

〒163-0823 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル23F

株式会社ダイフレックス

TEL:03-5381-0666 FAX:03-5381-0670

MAIL:resitect_honbu@dyflex.co.jp

URL:<http://www.resitect.net/index.html>

第19号掲載内容

- P-1：日本防食協議会／BT工法紹介（佐久市・塩尻市）
- P-2：CVアーレ工法紹介（千曲市・豊田市）
- P-3：CVアーレ工法紹介（会津若松市）
- P-4：断面修復工法（幸手市）／CVアーレ工法紹介（南会津郡）
- P-5：ボットB工法（福岡県糟屋郡）／BT工法紹介（海上保安庁）
- P-6：RT工法紹介（JR北海道・JR西日本）
- P-7：CVアーレ工法紹介（東京外環自動車道）
- P-8：BN加盟企業紹介／セラゼックス工法紹介（杉並区）



2008年
第19号

「下水道コンクリート防食工事 施工・品質管理の手引書(案)」の説明会開催

(財)下水道業務管理センターの主催で「下水道コンクリート防食工事 施工・品質管理の手引書(案)」が発行されたことに伴って、その手引書の内容についての説明・講演会が東西で開催されました。

東京会場では10月10日、100名の出席者、大阪会場では同17日に60名の出席者があり、非常に熱心に聴講され、説明会後の質問時間においても、活発な質疑応答が行われるなど関心の深さを感じられました。レジテクトBN会員も東西で多くの方々にご出席を頂き、主催者からも御礼の言葉がありました。

この書籍は、(財)下水道業務管理センターから発刊されました。日本下水道事業団「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル」(H19.7.7)に準拠しており、「塗布型ライニング工法」の事項に関して、特に現場での下水道防食工事の「施工・品質管理」面で十分役立ってくれることと思います。

具体的なポイントは、マニュアルに記載されている10年保証に対応するため、実施すべき「施工」と「品質管理」に力点を置き、所謂「専門技術者」にとって、解りやすい内容にしています。

また、防食工事施工者のみならず、監督職員や元請にも共通の理解をしていただける実務書になっています。施工現場では必ず「携帯」されますようお願い致します。



基調講演：島根大学の野中教授
東京会場
飯田橋レインボービル

レジテクトグループ 東京支店長 播磨 強

無溶剤型仕様 新レジテクトBT-D工法及びエポキシノンクロス仕様ボリテックS-C工法が国内初採用

長野県内にてレジテクトEP-F（無溶剤型プライマー兼素地調整材）を使用した最新のBT工法が下水道事業団に初採用となりました。施主からは、無溶剤であることがポイントとなり首尾よく承諾を頂きました。新仕様の特徴は、次の通りです。

①無溶剤型であるため従来工法（溶剤型）と比べ、作業環境が大幅に改善できた。

②レジテクトEP-Fは、プライマーと素地調整の機能を持つため従来工法より1工程短縮できた。

③コテ、ヘラ塗布型で非常に作業性に優れていた。

④レジテクト500と接着強度に優れていた。

本現場は、新設であったため痘痕及び段差修正に材料が食い込み、結果的にはレジテクトEP-Fを2回塗布することとなりましたが、作業性は非常に良好で何よりも無溶剤であることによる作業改善・安全性が大きいと感じました。下地を丁寧に仕上げたため、レジテクト500のピンホールも一切なく順調に工事が進みました。

施主からは、初めてポリウレア樹脂を採用するにあたり厚み管理に対する課題を頂きました。下水では針貫入式膜厚計は使用せず、付着試験などでアタッチメントに付着した膜厚をノギス等で測定しますが、非破壊厚み管理方法としてMQCテープ（アルミ+不織布）を約1.0m間隔でレジテクトEP-Fに埋め込み、それを図面上に明記して電磁式非破壊膜厚測定器で管理しました。施主からの評価及び仕上がりとも良好な結果でした。

今後は、改修等において断面修復材への上塗としてのレジテクトEP-Fの塗布量も現場で確認しながらBN本部にフィードバックしていきます。

本現場終了後、県内で塩尻市浄化センター内の防食工事をボリテックC工法（エポキシ樹脂クロス）を210m²+ボリテックS-C工法（エポキシ樹脂ノンクロス）を191m²で施工しています。

BN本部からは、上水仕様に対しても無溶剤型で環境ホルモン対応型工法「レジテクトBT-JW」（ポリウレア樹脂）の上市が間近と聞いており、更なる展開が図れそうです。



汚泥貯留槽外観



レジテクトEP-F



汚泥分配槽事前調査

株式会社五十鈴長野 特販部部長 村井 浩二

工事名称：佐久下水道管理センター建設工事その5

施工地域：長野県佐久市内

工 期：平成20年8月27日～平成20年10月20日

工 法：レジテクトBT-D工法

発注者：日本下水道事業団 長野事務所

施工会社：株式会社五十鈴長野

施工規模：汚泥貯留槽656m²、スカフィット38.5m²、汚泥分配槽16m²